

Perl製コマンド ggdrv (App::ggdrv)

2023-03-16 木 下野寿之

Googleドライブとローカルのファイルを(cronなどで自動的に)同期するために、OAuthの認証も行い、ファイルを検索し、{up,down}loadして、同期をする仕組みを提供するサブコマンド方式のコマンド。

コマンド ggdrv を何に使うのか？

- OAuth2の認証の仕組み(4つのキーを使う)により、Googleドライブのファイル进行操作する機能をいくつか提供。
- ローカルのデータファイルをGoogleドライブに定期的に自動的に更新することを目的とした。
- 他の機能は、今の所、限定的。
- Googleドライブにあるファイルの数を全て数えることもできる。

インストール

- `cpanm App::ggdrv`
- 元に戻す (アンインストール) には `cpanm -U App::ggdrv`
- 下記のインストールも必要に応じて。
 - `Net::Google::OAuth`
 - `App::ggdrv::tokens` が依存。
 - `Net::Google::Drive`
 - `App::ggdrv::{:fsearch,download,download5}` が依存。

サブコマンド:

1. サブコマンド無し: 最初の使い方を表示。
2. --help : ヘルプの文面を表示。
3. crecord : client IDとclient secret取得。
4. tokens : refresh tokenとaccess token取得。
5. fsearch : Google Driveで100個までファイル探索。
6. fsearchall : Google Driveファイルの全一覧の取得。
7. upload : PC (=local)のファイルを指定フォルダに。
8. download : Google DriveのファイルをPCに。
9. update : Google Driveのファイルを更新。
10. upload5 : uploadして識別情報も取得。
11. download5 : 識別情報を元にdownload。
12. sync5 : PCの2個のfolderに違いがあればupload。

このコマンドを作成した訳:

- それぞれ開発した機能をまとめると便利:
 - あるプロダクトの他の機能から分離する方が良い。
 - 複数のプロダクトで、機能を実装するのは無駄。
 - 集約して、機能改良を積み上げた方が良い。
 - 再利用性が高まる。
 - 汎用性も高まる。
- サブコマンド方式にした訳:
 - 関連した機能を持つので、ひとつのコマンドの下にまとめた方が、機能の整理もしやすい。
 - 関連した機能が依存関係にある場合、特にそうである。
 - 逆にバラバラのままだと、面倒。
 - コマンド名やモジュール名も無理が生じやすい。

利用にはOAuth認証の理解が必要

- Client id